

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《理工農系》

●岩手大学連合農学研究科

「寒冷圏農学を拓く研究適応力育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本プログラムの中心的科目の1つである研究インターンシップにおいて、本研究科と協定を締結しているサスカチュワン大学（カナダ）へ毎年2～3名の学生を派遣した。

また、合宿形式で実施する科学コミュニケーションでは連合農学研究科の4つの構成大学の学生が集まって地域の課題を取り上げた研究計画の作成ワークショップを試行した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

サスカチュワン大学（カナダ）への海外研究インターンシップでは、先方の大学の受け入れ希望と、連合農学研究科の希望学生の受け入れ先の調整のため、研究インターンシップ実施前に教員がサスカチュワン大学を訪問し、事前に綿密な調整を行った。

また、科学コミュニケーションにおける研究計画の作成ワークショップでも事前に岩手県紫波町に趣旨を説明し、事前に入念な打合せを行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

海外研究インターンシップでは、3週間程度ではあるが学生に海外の研究機関の様子を実感させ研究の視野と意欲の向上を図ることができた。

また、科学コミュニケーション研究計画の作成ワークショップでは、他大学、多分野の学生と1つの研究計画を考えさせることで、専門分野をわかりやすく伝えるコミュニケーション能力の育成に寄与できた。